

令和3年度 一般廃棄物の排出状況について

1 家庭系ごみの収集量(実績値)の推移

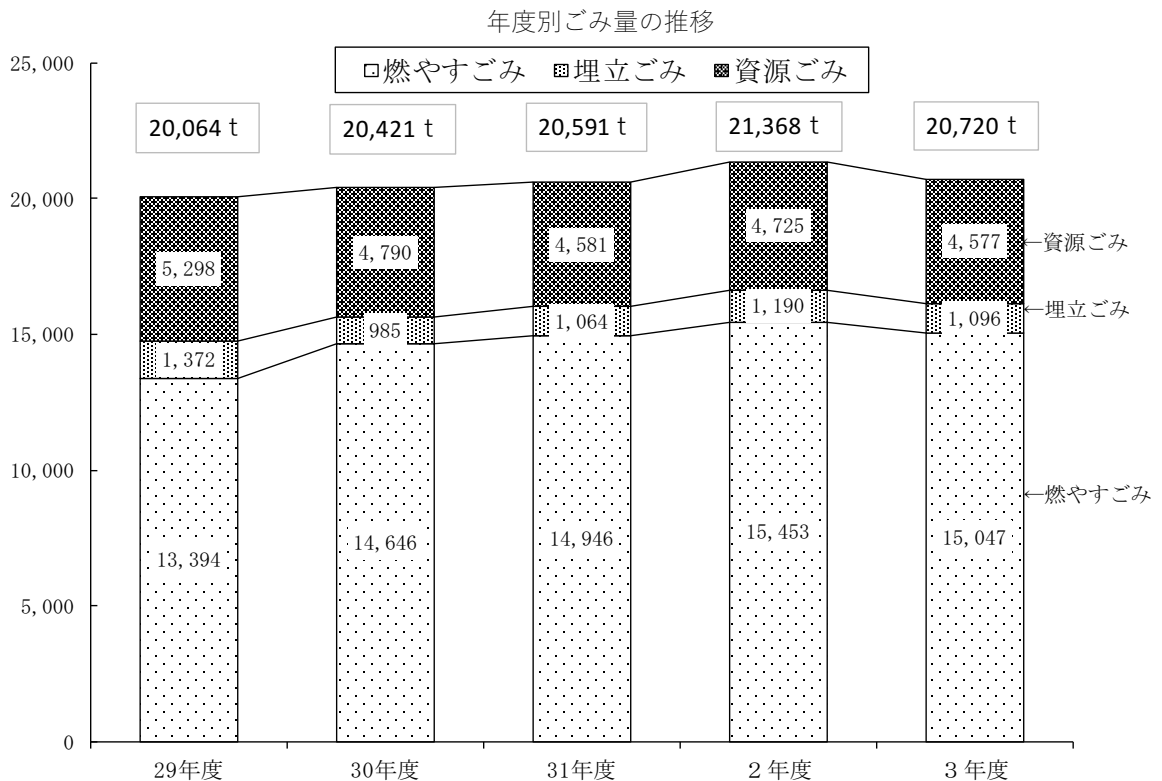
年度別ごみ量の推移 (家庭系一般廃棄物)

項目	単位	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度	対前年度 比率 %			
人口(9月末時点住民基本台帳人口)*	人	102,744	101,819	100,791	99,701	98,588				
ごみの収集量(家庭系一般廃棄物)(C) (市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	計画値	t/年	20,086	19,575	19,151	18,598	20,462	-		
	実績値	t/年	20,064	20,421	20,591	21,368	20,720	97.0		
処分ごみ(A)	実績値	t/年	14,766	15,631	16,010	16,643	16,143	97.0		
	燃やすごみ	計画値	t/年	13,041	13,396	13,157	12,883	14,394	-	
		実績値	t/年	13,394	14,646	14,946	15,453	15,047	97.4	
	埋立ごみ	計画値	t/年	1,639	1,184	1,188	1,133	1,002	-	
		実績値	t/年	1,372	985	1,064	1,190	1,096	92.1	
	うち火災ごみ	実績値	t/年	0	0	33	142	109	-	
資源ごみ(B)	計画値	t/年	5,406	4,995	4,806	4,582	4,385	-		
	実績値	t/年	5,298	4,790	4,581	4,725	4,577	96.9		
	紙資源	実績値	t/年	2,797	2,604	2,345	2,417	2,281	94.4	
	金属資源	実績値	t/年	457	478	500	574	538	93.7	
	ガラスびん	実績値	t/年	396	378	367	357	360	100.8	
	ペットボトル	実績値	t/年	46	47	45	45	44	97.8	
	プラ資源	実績値	t/年	1,505	1,260	1,290	1,305	1,315	100.8	
	特定ごみ	実績値	t/年	24	23	34	24	36	150.0	
	蛍光管	実績値	t/年	0	0	0	3	3	100.0	
再資源化率(B/C)	計画値	%	24.2	22.1	21.8	21.3	23.9	-		
	実績値	%	26.4	23.5	22.2	22.1	22.1	-		
一人当たりのごみの収集量(家庭系一般廃棄物)	実績値	kg/人・年	195.4	200.5	204.5	214.3	210.1	98.0		
	処分ごみ	実績値	kg/人・年	143.8	153.5	159.0	166.9	163.7	98.1	
		燃やすごみ	実績値	kg/人・年	130.4	143.8	148.4	155.0	152.6	98.5
		埋立ごみ	実績値	kg/人・年	13.4	9.7	10.6	11.9	11.1	93.3
	資源ごみ	実績値	kg/人・年	51.6	47.0	45.5	47.4	46.4	97.9	

*住民基本台帳人口に外国人含む。

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成29年度~平成32年度期)(令和3年度~6年度期)による

年度別ごみ量の推移



2 分析

令和3年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は20,720トンで、前年度対比648トン、3パーセントの減少となりました。「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（令和3年度～令和6年度）における計画値20,462トンに比べ、258トン上回りました。

(1) 処分ごみについて

燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は16,143トンで、前年度対比500トン、3パーセントの減少となっています。平成29年度以降は、処分ごみの燃やすごみは年々増加していましたが、特に令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により、自宅で過ごす時間が長くなったことの影響で大幅な増加が見られました。令和3年度では、コロナ禍の新しい生活様式が浸透してきたことで、日常生活が感染拡大前の暮らしに近づいたことによる減少とされます。

(2) 資源ごみについて

資源ごみの収集量は4,577トンで、前年度対比148トン、3.1パーセント減少しました。平成15年の8,733トンをピークに毎年減り続け令和2年度にわずかに増加しましたが、令和元年度（表中31年度）に近い値となりました。

内訳では、ガラスびん、プラ資源、令和2年7月から開始した蛍光管は微増、ペットボトルは微減、紙・金属は減少しています。全般の傾向は、近年の市内大型店舗での店頭回収が市民生活に浸透している一方で、店頭回収していない資源ごみについては市民の皆さんのリサイクル意識の広がりが見えます。

(3) 再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集総量で除した再資源化率は22.1パーセントと、前年度と同様でした。資源ごみの重量の減少と同様に処分ごみも減少したことより、数値は横ばいとなりました。

(4) 一人当たりのごみの収集量について

令和2年度と比較して4.2キログラム、率にして2パーセント減少しています。燃やすごみ、埋立ごみ、資源ごみの3種とも減少が見られます。

3 課題と今後の取組

令和3年に行った燃やすごみの組成調査では、資源化可能な「紙類」、「プラ資源」の混入が約6.5パーセントみられました。令和2年度から約2.5ポイント改善しています。「紙類」の混入率は減少していますが、「プラ資源」の混入率が増加しています。引き続き資源化可能な「紙類」、「プラ資源」の分別排出の促進が課題です。「ごみリサイクルカレンダー」や「分別ガイドブック」といった既存の広報資材や、広報いいたの特集記事、映像媒体による資源化推進の啓発、スマートフォン等を媒体とした「ごみ分別アプリ」の活用、加えて各地区環境衛生担当委員会と協働して各地区におけるごみ分別学習会を開催するなど、多面的な啓発活動を継続して進めてまいります。

また、燃やすごみの中で比重の大きな「生ごみ」を減量するため、生ごみ処理機購入費補助事業に取り組む、機器の一層の普及を図ることによって、燃やすごみの減量につなげていきます。

一方、表中埋立ごみ量として値を示していませんが、燃やすごみの焼却処理の結果生じる「焼却灰」は年約2,000トンあり、その内3分の2は令和元年度から外部搬出し、再資源化処理をしています。灰排出の状況に応じ、今後もこの事業の継続に取り組んでいきます。